

【複数年度(2年目)】EV充電器の公道設置に関する社会実験(神奈川県横浜市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- EV車の普及、ひいては道路交通の低炭素化の実現を目指すために、EV充電器を公道に設置し利便性や安全面での効果や課題を検証する。
- EV充電器の公道設置を社会実験として実証することで、道路占用(道路法)に関連した設置基準等の検討に結びつくこと。

2. 実験内容、実験結果

- ① 周辺交通、歩行者への影響評価
⇒ 周辺交通、歩行者への影響、および危険を伴う事例なし
- ② 利用者マナーの確認
⇒ 大半のユーザーはマナーを遵守
⇒ 逆向き充電対策として、充電器/充電マスの配置の工夫が必要
- ③ EVユーザーのニーズの確認
⇒ 公道設置に対するニーズは高い
- ④ その他
⇒ 車道を走る車のスピードが速く、乗り降りに気を遣うというコメントが多くあり
⇒ EVが十分に普及するまでは、占用主体のあり方や占用料減免の扱いについて議論が必要



充電器



規制看板

社会実験実施中

(令和3年) (令和4年)
6月8日~3月31日(予定)

EV充電器の公道設置に関する
実証実験を行っています。

電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド車(PHV)の
充電中に限り枠内に駐車が可能です。

監視装置
作動中

EV EV
道路

社会実験に関するお問い合わせ
横浜市環境化対策統括本部 ☎ 045-671-4109
プロジェクト推進課 (平日9時~17時、土日祝祭日休)

充電器の操作・故障等に関するお問い合わせ
(株)Ja-Mobility Power ☎ 0120-1121-57
お客様相談窓口 (受付時間: 平日9時~17時)

利用実態
アンケートに
お答えください。

社会実験周知看板

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
横浜市は大学が多いため、若い世代に本取組をPRしてはどうか。	「ヨコハマエコスクール協働パートナー(温暖化対策を市と協働で実施する市民・団体等)」の複数の学生団体に対して、当該事業の団体内での周知とSNSでの拡散を依頼し、若者向けにPRを進めている。
月毎の平日・休日割合を分析してみてもどうか。	分析を実施したものの、月毎に大きな違いは見られなかった。
駐車場に設置された場合と比較し、速いスピードで設備に衝突される可能性あり。衝突防止ポールを設置位置が最適か検討すべきである。	次年度の充電ステーション最適化の中で検討したいと考えている。
公道にあることで景観上の問題はないのか。	設置設備に奇抜な色味は使用しておらず、横浜市景観条例上問題ないことは確認済であるものの、今後もユーザーや市民のご意見に耳を傾け最適化していく。
充電価格で需要のコントロールをすることはできないか。	自動車会社等の充電サービス提供者も交え、充電価格の在り方については継続議論していきたい。

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
前方駐車マスの使いづらさの改善や乗り降りの際の一層の安全性を確保する必要がある。	充電マスの配置の工夫や充電ケーブルの調整など、充電ステーションの最適化に向けた取組を実施する。
違法駐車やゴミのポイ捨てといった利用者のマナーを改善する必要がある。	定期的な現地確認を実施する。
EV充電器占用条件のルール化(国ガイドライン策定)やEV充電器のための占用料規定を設定する必要がある。	国土交通省によるルール化の検討、道路管理者による占用料の検討にあたって、協力、協議を行う。
都心部で設置した場合の課題を洗い出しする必要がある。	次期候補地への設置に向けた調整を本格化する。

5. 今後のスケジュール

- 令和4~5年度: 社会実験終了後、横浜市実証実験を継続
- 令和6年度以降: 本格実施(実証実験終了)

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- 社会実験を実施するにあたり、これまでに事例が無く、基準や条件の整理等がされてないことで、道路管理者・交通管理者が判断に苦慮することのほか、協議に応じてもらえないことがあった。
- 充電器の公道設置を他地域へ展開するにあたり、国によるEV充電器占用条件のルール化(国ガイドライン策定)や道路管理者によるEV充電器のための占用料規定などが早急に必要と考える。